

## 放射線治療経過に伴う乳がん患者の気持ちの変化

赤石 三佐代,<sup>1</sup> 石田 順子,<sup>2</sup> 石田 和子<sup>3</sup>  
植原 早苗,<sup>4</sup> 神田 清子<sup>5</sup>

### 要 旨

**【背景と目的】** 放射線治療を受けている乳がん患者の気持ちを明らかにした研究が少ない。そこで乳がん患者の放射線治療経過に伴う気持ちの変化を明らかにし、看護支援を検討する。**【対象と方法】** 研究参加に同意の得られた放射線治療を受けた乳がん患者6名で、半構成的面接法及び看護記録、診療記録からデータを収集した。質的帰納的手法により患者の気持ちに関する言語をコード化し、類似性に沿ってサブカテゴリー・カテゴリー化へと抽象化した。**【結 果】** 放射線治療開始時の気持ちは「がんと放射線治療の受容」「がんと放射線治療の苦悩」「家族や仲間を求める癒し」「病気回復と医療への期待」、放射線治療中間時は「放射線治療を生活の一部として受容」「放射線治療を受けている苦悩」「他者との関係における心強さ」「将来への不安と希望」、放射線治療終了時は「放射線治療が終了した安堵感と将来への希望」「症状・副作用・再発に対する苦悩」「他者から受けたサポートへの感謝」「医療・医療従事者への要望」というカテゴリーが明らかになった。**【結 語】** 放射線治療を受ける乳がん患者への看護支援は、気持ちの葛藤に合わせた情報の提供と適切な技術の提供が重要であることが示唆された。(Kitakanto Med J 2005 ; 55 : 105~113)

キーワード：放射線治療, 乳がん患者, 気持ち, 質的研究

### はじめに

厚生労働省の平成15年統計資料によると、死因順位の1位は悪性新生物によるものが30.5%を占め、約3人に1人ががんによって死亡している。そのうち女性の15.2%が乳がんにより死亡している。<sup>1</sup> 近年、早期乳がんに対する治療としては、全摘せずに腫瘤部分のみを切除して、温存した乳房に放射線をかける乳房温存療法が、標準的に行われるようになってきた。<sup>2</sup>

このような状況の中、乳がん患者の看護に関する研究は多くの研究者によって行われており、乳がん患者の危機プロセスに関する研究,<sup>3</sup> 化学療法中の乳がん患者の気持ちに関する研究,<sup>4</sup> ソーシャル・サポートと精神的・身体的状況との関連を明らかにした研究<sup>5</sup>などが散見する。また、朴氏は、乳がん罹患したことによる心の衝撃は、疾患の発見や診断、治療、その後という一連の流れの中で常に存在していると述べている。<sup>6</sup> しかし、放射線治療中の患者に関する研究は数少なく、<sup>7</sup> 近藤氏は放射線治療

中の日常生活上の困難を明らかにしているが、<sup>8</sup> 放射線治療経過に伴う患者の気持ちを明らかにした研究はない。

そこで本研究では、放射線治療を受ける乳がん患者が、治療開始時点・治療の中間時点・治療が終了となる時点ではどのような気持ちでいるのかを明らかにすることにより、より適切な看護支援を検討する。

### 対 象 と 方 法

#### 対 象

がん専門病院で、放射線治療を初めて受ける乳がん患者のうち、言語的コミュニケーションが可能であり、研究に参加への同意が得られた患者6名。年齢は40歳代から70歳代までとし、Performance Status Scales/Scores (以下PS)<sup>9</sup>がGrade0「無症状で社会活動ができ、制限を受けることなく、発病前と同等に振る舞える。」とGrade1「軽度の症状があり、肉体労働は制限を受けるが、歩行・軽労働や座業はできる。」とする。

1 群馬県前橋市昭和町3-39-15 群馬大学大学院医学系研究科博士前期課程 2 埼玉県児玉郡上里町嘉美立野南1600-51 本庄児玉看護専門学校 3 群馬県前橋市昭和町3-39-15 群馬大学医学部附属病院 4 群馬県太田市高林西町617-1 群馬県立がんセンター 5 群馬県前橋市昭和町3-39-15 群馬大学医学部保健学科  
平成17年2月22日 受付  
論文別刷請求先 〒371-8511 群馬県前橋市昭和町3-39-22 群馬大学医学部保健学科 神田清子

## データ収集方法

半構成的面接によるデータ収集：研究者が作成したインタビューガイドを用い、放射線治療開始時、中間時、終了時に面接を行った。

放射線治療開始時は、放射線治療が開始となった日から3日以内であり、面接内容は「病名の説明を受けてから感じたこと・思ったこと」「放射線治療を始めると聞いてから感じたこと・思ったこと」「心配や困っていることにどのように工夫して解決しているか」などである。

放射線治療中間時は、放射線治療を開始してから13日から16日目であり、面接内容は「放射線治療を始めから、今日までに感じたこと・思ったことを、順を追ってお話しください」「現在の症状や身体の変化で心配なことや困っていることがありますか」などである。

放射線治療終了時は、放射線治療終了日に「放射線治療が終了しましたが、感じたこと・思ったことを、順を追ってお話しください」「現在の症状や身体の変化で心配なことや困っていることがありますか」などを質問した。

面接は対象者のプライバシーが守られた外来の比較的静かでゆったりとした場所を利用し、時間は患者が疲れない30分から1時間程度とした。対象者の理解を得て面接内容をテープに録音し、逐語録に起こして記述資料とした。

また、放射線診療録より、対象者の背景(年齢・性別・診断名・PS・放射線照射量・併用療法・受診経過・治療方針・医師の説明内容)に関する情報を収集した。

## 調査期間

平成16年4月1日から8月30日

## 分析方法

内容分析手法<sup>10</sup>を参考に質的帰納的分析を用い以下の手順で行った。

- ①対象者の面接内容を逐語録におこして、内容を熟読する。
- ②気持ちに関する内容を抽出し、意味が損なわれないように書き表す。
- ③さらに対象の言葉を熟読し、言葉を簡潔に表現し、内容の類似したものを集め、対象者の表現を残した

ままの一文にし、コード化とする。

- ④類似のコードを集め、その意味内容に表題をつけサブカテゴリーとする。
- ⑤さらに類似した内容を抽象化し、名称をつけ、カテゴリーとする。

## 分析の信頼性・妥当性の確保

がん看護の質的研究の経験者の指導を受け、がん看護経験20年の看護師と、質的研究の経験者の看護師と放射線科看護経験6年の研究者で資料の照合を行い、研究の信頼性・妥当性を高めることとした。また面接内容の逐語録は、患者の意に即しているかの確認のため、次の面接時に患者にフィードバックして内容の要旨を確認することで信頼性を高めた。

## 倫理的配慮

本研究は、調査施設の研究倫理委員会の承認を得て行った。対象者には研究の目的・方法を説明し、研究への参加は自由であり、参加を希望しない場合にも患者の受ける治療と看護には支障がないこと、収集した個人データは研究の目的にのみ使用すること、個人名などの秘密は厳守することを文書で説明した。その上で、研究参加に同意できるか否かを同意書に署名することにより得た。また面接によって負担とならないよう安全安楽の保持に配慮し、苦痛症状がみられるときは面接を中止することとした。

## 用語の操作的定義

気持ち：放射線治療を受ける乳がん患者が治療と共に思い描く感情の動き、心のあり方を指す。

## 結 果

### 対象者の概要

対象者は6名であり、概要は表1に示すとおりであった。平均年齢は54.7歳(標準偏差13.0)で、外来通院で治療を受けていた。PSは0または1でコミュニケーションに支障はなかった。放射線の総線量は50Gyまたは60Gyであり、併用療法として化学療法、ホルモン療法を行っていた。面接時間は平均41分であった。

表1 対象者の概要

患者	年齢	外来入院	総線量	補助療法	治療方針	PS
A	50	外来	50Gy	手術+ホルモン療法	根治	0
B	50	外来	50Gy	手術	根治	0
C	75	外来	50Gy	ホルモン療法	根治	0
D	50	外来	60Gy	手術	根治	1
E	40	外来	60Gy	手術+化学療法	根治	1
F	60	外来	60Gy	ホルモン療法	根治	0

PS (Performance Status Scales/Scores)

0：無症状で社会活動ができ、制限を受けることなく、発病前と同等に振る舞える。

1：軽度の症状があり、肉体労働は制限を受けるが、歩行・軽労働や座業はできる。

表2 放射線治療開始時の気持ち

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	人数
がんと放射線治療の受容	がんを告知されての覚悟	病気について自分で聞いて納得している	6
		がんになったのだから治療するしかないと覚悟している	4
		がんと承知しているので不安はない	2
		生きたくて後何年もないと覚悟している	1
	治療の説明を受けての納得	副作用や回数など説明を受け理解している	6
		手術にするか放射線にするか自分で選んで納得している	5
		しっかり治療をして治そうという意欲がある	5
		30回治療をすると聞いて覚悟はできている	4
		放射線治療について体験して初めてこうなのかとわかる	3
		治療を納得していて心配や不安ない	2
	生活の一部としての治療への前向きな意欲	治療をしても普通の生活ができていますので満足している	4
		リハビリを続ける義務がある	3
		通うことを楽しみにしている	3
		仕事も気なりにやっている	3
がんと放射線治療の苦悩	がんの病気になった衝撃	がんが長生きできないのではないかと恐怖感がある	3
		がんになるとは夢にも思っていなくて混乱している	2
		今までの行いが悪かったのかと自分を責める	1
		もっと早くわかっていたらと後悔する	1
		運が悪いと思う	1
	放射線治療を受ける驚き	どんな副作用が出てくるのか心配している	5
		放射線治療について何もわからないから心配である	4
		病院にいるときは元気で家に帰ると落ち込んでしまう	3
		治療の回数が30回と多いことに驚いている	3
		外来で通い通せるのか不安である	3
	治療の制約における我慢	治療のために胸を出さねばならず羞恥心がある	3
		なるようにしかないと諦めている	2
		腋の毛が生えてくるのではずかしい	1
		放射線治療の位置決めるときじっとして肩が痛い	1
家族や仲間から求める癒し	家族への思いやり	家族に病気を打ち明け共有している	5
		家族には心配させたくない	4
		家族の協力を得ている	3
		子供が小さいから悲しい	1
	仲間から得られる安心感	他の患者から情報を得ているので落ち着いている	4
		同じ病気の人と情報を交換して気が楽になる	3
		他の人も放射線をしていると聞いて安心する	3
		がんでも元気な人を知っているので安心する	3
		メールや電話で安らぎをもとめている	2
病気回復と医療への期待	生きたいという希望	早く治療をして良くなりたい	6
		まだ生きていたい	4
		どこも悪くないよと元気がある	2
	医療者への要望	専門の病院で診てもらいたい	3
		医療ミスのないように期待する	3
		病院の雰囲気や優しい対応で安心できる	3
		検査中の医師の態度や言葉で心配になる	2
		他病院での対応や話し方に嫌悪感をいだいている	2

## 放射線治療経過に伴う乳がん患者の気持ちの分析

乳がん患者の放射線治療経過に伴う気持ちとして、放射線治療を開始時点ではコード47、中間時点ではコード36、終了時点ではコード46が得られた。それぞれの時点でのコードからさらにサブカテゴリー10、9、14を抽出し、カテゴリーをそれぞれの時点で4個ずつに分類した。

以下にカテゴリーに沿って説明する。尚『』はカテゴリーを示し、『』はサブカテゴリー、〈〉はコードを表すこととする。

## 放射線治療開始時の気持ち (表2)

『がんと放射線治療の受容』のカテゴリーには〈病気について自分で聞いて納得している〉〈がんになったのだから治療するしかないと覚悟している〉〈がんと承知しているので不安はない〉という気持ちから《がんを告知されての覚悟》というサブカテゴリーが導かれた。患者はがんを告知され受け入れられていた。また〈副作用や回数など説明を受け理解している〉〈手術にするか放射線にするか自分で選んで納得している〉〈しっかり治療をして治そうという意欲がある〉という気持ちからは《治療の

説明を受けての納得」というサブカテゴリーが抽出され、放射線治療を受けて病気を治したいという意欲がわかった。〈治療をしても普通の生活ができているので満足している〉〈リハビリを続ける義務がある〉〈通うことを楽しみにしている〉〈仕事も気なりにやっている〉という気持ちから《生活の一部としての治療への前向きな意欲》のサブカテゴリーが導かれ、外来で通って治療しようとする意気込みがみられた。

『がんと放射線治療の苦悩』のカテゴリーでは、〈がんで長生きできないのではないかとこの恐怖感がある〉〈がんになるとは夢にも思っていないで混乱している〉〈今までの行いが悪かったのかと自分を責める〉という気持ちから《がんの病気になった衝撃》のサブカテゴリーが抽出され、〈どんな副作用が出てくるのか心配している〉〈放射線治療について何もわからないから心配である〉〈病院にいるときは元気で家に帰ると落ち込んでしまう〉〈治療の回数が30回と多いことに驚いている〉〈外来で通いとおせるのか不安である〉の気持ちから《放射線治療を受ける驚き》のサブカテゴリーが得られた。さらに〈治療のために胸を出さなければならず羞恥心がある〉〈なるようにしかならないと諦めている〉という気持ちから《治療の制約における我慢》のサブカテゴリーが抽出された。がんのために放射線治療を受けなければならないことへの苦痛と悩みが現れていた。

『家族や仲間を求める癒し』のカテゴリーでは、〈家族に病気を打ち明け共有している〉〈家族には心配させたくない〉〈家族の協力を得ている〉という気持ちから《家族への思いやり》というサブカテゴリーが抽出された。また〈他の患者から情報を得ているので落ち着いている〉〈同じ病気の人と情報を交換して気が楽になる〉〈他の人も放射線治療をしていると聞いて安心する〉〈がんでも元気な人を知っているので安心する〉という気持ちから《仲間から得られる安心感》というサブカテゴリーが抽出された。家族や仲間のサポートを必要とされていた。

『病気回復と医療への期待』のカテゴリーでは、〈早く治療をして良くなりたい〉〈まだ生きていたい〉という気持ちから《生きたいという希望》のサブカテゴリーが得られた。〈専門の病院で診てもらいたい〉〈医療ミスのないように期待する〉〈病院の雰囲気や優しい態度で安心できる〉という気持ちからは《医療者への要望》が導かれた。医療を受けて病気を治そうとする気持ちがみられた。放射線治療中間時の気持ち (表3)

『放射線治療を生活の一部として受容』としたカテゴリーの中には、〈治療が半分までやっきたという感じである〉〈あともう少し頑張りたい〉〈治療が半分まできたのでほっとしている〉〈通ってくることに慣れてきている〉などの気持ちから《治療を受けていることの納得》

のサブカテゴリーが抽出された。〈毎日の生活はまるっきりなんでもない〉〈通うことは苦にならない〉〈何も心配していない〉の気持ちから《日常生活の再構成》のサブカテゴリーが得られた。治療を毎日の生活の一部として続けていることがわかった。

『放射線治療を受けている苦悩』のカテゴリーには、〈毎日通うのが大変である〉〈何で通わなくてはならないのかと思ったこともある〉〈通うことに疑問を持つことがある〉〈正しく治療されているのか不安になる〉〈治療中あと何秒かなとじっとしているのが大変である〉という気持ちから《外来通院することの苦痛》が抽出された。また〈裸になることはいやである〉〈照射野を示すマークが書かれているのが気になる〉〈こすってはいけないので気を遣っている〉という気持ちから《治療における制約》が抽出された。さらに〈すこしだるさを感じる〉〈副作用のためか通うことからなのか疲れている〉〈皮膚が赤くなるかもしれないので心配である〉という気持ちから《副作用に対する悩み》のサブカテゴリーが抽出された。毎日休まず治療を続けることの困難さが含まれていた。

『他者との関係における心強さ』のカテゴリーでは、〈同病の知人と情報を共有でき心強い〉〈他の患者から情報を得ているので落ち着いている〉〈同病の友達に会えるとうれしい〉などの気持ちから《仲間との交流の喜び》のサブカテゴリーが抽出された。また〈先生が言うようにしかならない〉〈技師の人が優しいのでうれしい〉〈もう少し治療の説明をしてほしい〉など《医療従事者への期待》のサブカテゴリーが抽出された。毎日治療を続ける中での人との関わりの気持ちがみられ、喜びとともにもっと何とかして欲しいという期待がこめられていた。

『将来への不安と希望』のカテゴリーには〈治療をしても再発するかも知れない不安がある〉〈治療の後どうなるのか考えると不安になる〉という気持ちから《治療が終了してからの不安》というサブカテゴリーが抽出された。また、〈治療が終われば旅行に行きたい〉〈大きな照射野を示すマークが取れるのが待ち遠しい〉という気持ちから《治療が終了することの願望》というサブカテゴリーが抽出された。早く治療が終了して楽しみたいという希望と、治療は終了しても常に不安な気持ちは持ち続けなければいけないという心の葛藤がみられた。

#### 放射線治療終了時の気持ち (表4)

『放射線治療が終了した安堵感と将来への希望』のカテゴリーには、〈放射線治療が終わりほっとしている〉〈回数が長くやっと終わった気持ちである〉〈一段落したという気持ちである〉という気持ちから《治療が終了した達成感》のサブカテゴリーが得られた。〈日常の生活でほとんど変わりが無い〉〈放射線治療を受けて辛いことはない〉〈放射線治療をしても大丈夫だった〉の気持ちから

表3 放射線治療中間時の気持ち

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	人数
放射線治療を生活の一部として受容	治療を受けていることの納得	治療が半分までやっきたという感じである	4
		あともう少し頑張りたい	4
		治療が半分までできたのでほっとしている	3
		通ってくることに慣れてきている	3
		お仕事と思って通っている	2
	日常生活の再構成	毎日の生活はまるっきりなんでもない	4
		通うことは苦にならない	3
		何も心配していない	2
		楽天的な性格だから重大な病気とっていない	1
放射線治療を受けている苦悩	外来通院することの苦痛	毎日通うのが大変である	3
		何で通わなくてはならないのかと思ったこともある	3
		通うことに疑問をもつことがある	2
		正しく治療されているのか不安になる	2
		治療中あと何秒かなとじっとしているのが大変である	2
		休むと治療の効果がなくなるので休めない	1
	治療における制約	裸になることはいやである	3
		照射野を示すマークが書かれているのが気になる	3
		こすってはいけないので気を遣っている	2
	副作用に対する悩み	少しだるさを感じる	5
		副作用のためか通うことからなのか疲れている	3
		皮膚が赤くなるかもしれないので心配である	3
		ひりひりしてきたのが辛い	2
		つかえ感が出てきたので不安がある	1
他者との関係における心強さ	仲間との交流の喜び	同病の知人と情報を共有でき心強い	5
		他の患者から情報を得ているので落ち着いている	4
		同病の友達に会えるとうれしい	3
		一緒に通う人がいなくなると寂しい	3
		長い治療で知人ができうれしい	3
	医療従事者への期待	先生が言うようにしかならない	3
		技師の人が優しいのでうれしい	3
		もう少し治療の説明してほしい	3
		先生は何も言わないからなんでもない	2
将来への不安と希望	治療が終了してからの不安	治療しても再発するかも知れない不安がある	3
		治療の後どうなるのか考えると不安になる	2
	治療が終了することの願望	早く終われば旅行に行きたい	2
		大きな照射野を示すマークが終わればとれるので待ち遠しい	2

《治療しても生活に変化がないことの喜び》のサブカテゴリーが抽出された。また〈不安なく生きたい〉〈仕事や趣味を楽しみたい〉などの気持ちから《元気に生きたいという希望》のサブカテゴリーが抽出され、〈先のことを考えても仕方ない〉〈天に任せるしかない〉などのコードから《なるようにしかならない落ち着き》というサブカテゴリーが抽出された。毎日の治療を乗り越えた達成された気持ちが現れていた。

『症状・副作用・再発に対する苦悩』のカテゴリーでは、〈疲労感がある〉〈20回目頃が一番疲れる〉の気持ちから《身体に感じる疲労感》のサブカテゴリーが抽出された。また〈皮膚がピリピリして気になる〉〈痛みがあつてこすれないのが辛い〉〈皮膚の色が変わったので心配である〉〈皮膚のかさぶたが気になる〉という気持ちから《皮膚の変化への不安》のサブカテゴリーが抽出され、〈再発の心配がある〉〈再発しないで欲しい〉〈転移することが怖い〉という気持ちから《病気の再発の恐れ》というサブカテゴリーが抽出された。さらに〈放射線の影響がこ

れからも続くのか心配である〉〈皮膚の状態が元に戻るのか心配である〉の気持ちから《副作用の不安》というサブカテゴリーが抽出された。副作用出現に対する苦痛と治療が終わっても再発や今後の不安がみられた。

『他者から受けたサポートへの感謝』のカテゴリーには、〈新しい患者と知り合いになれて張り合いが出る〉〈同病者の友達とメールの交換をしてストレス解消している〉〈外来で同病者と会って安心する〉〈仲間がいなくなるとだるくなる〉の気持ちから《仲間から得られる安心感》のサブカテゴリーが抽出された。〈家族と一緒に通院してくれてありがたい〉〈姉妹に世話になって助かった〉〈夫に相談にのってもらい安心している〉の気持ちから《家族の援助への感謝》のサブカテゴリーが抽出された。仲間や家族からサポートを受けて治療を続けられ、こころの支えとなっていたという感謝の気持ちが現れていた。

『医療・医療従事者への要望』のカテゴリーには〈治療の時間や方法をその都度言ってほしい〉〈先生の言葉は

表4 放射線治療終了時の気持ち

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	人数	
放射線治療が終了した 安堵感と将来への希望	治療が終了した達成感	放射線治療が終わりほっとしている	6	
		回数が長くやっと終わった気持ちである	4	
		一段落したという気持ちである	4	
	治療しても生活に変化がないことの喜び	日常生活でほとんど変わりが無い	5	
		放射線治療を受けて辛いことはない	4	
		放射線治療をしても大丈夫だった	4	
		治療についてお任せしているので全く心配していない	2	
	元気に生きていたいという希望	不安なく生きたい	5	
		仕事や趣味を楽しみたい	4	
		まだ生きていたい	3	
	なるようにしかならない落ち着き	まだ元気でいたい	3	
		先のことを考えても仕方ない	3	
		天に任せるしかない	2	
	症状・副作用・再発に対する苦悩	身体に感じる疲労感	いつ死んでもいい	1
			疲労感がある	4
20回目頃が一番疲れる			4	
仕事のためか副作用なのかわからないが疲れている			3	
治療の後半から疲れてくる			3	
皮膚における変化の不安		疲れやだるさはない	2	
		皮膚がピリピリして気になる	3	
		痛みがあってこすれないのが辛い	2	
		皮膚の色が変わったので心配である	2	
		皮膚のかさぶたが気になる	2	
病気の再発の恐れ		皮膚の弱い人は大変だが自分は大丈夫なのでうれしい	1	
		再発の心配がある	4	
		再発しないで欲しい	4	
		転移することが怖い	3	
副作用の不安		放射線治療をしない人がいるので自分は悪いのか心配である	2	
	放射線の影響がこれからも続くのか心配である	3		
	皮膚の状態が元に戻るのか心配である	3		
他者から受けたサポートへの感謝	新しい患者と知り合いになれて張り合いが出る	3		
	同病者の友達とメール交換をしてストレス解消している	2		
	外来で同病者と会って安心する	2		
	仲間がいなくなるとだるくなる	2		
	家族と一緒に通院してくれありがたい	2		
医療・医療従事者への要望	情報提供による心の揺らぎ	姉妹に世話になって助かった	1	
		夫に相談にのってもらい安心している	1	
		治療の時間や方法をその都度言ってほしい	4	
		先生の言葉はとても気になる	4	
		親切にしてもらい感謝している	4	
	医療ミスの心配	先生に心配ないと言われると安心する	3	
		最後まで思っていた日に追加と言われるのがっかりする	1	
	継続治療の希望	自分にあった線量が当たっているのか不安である	3	
		確実に治療できているか目に見えると良い	2	
		納得がいくまで診てもらいたい	4	
		定期的な診察を継続的にしっかりして欲しい	3	

とても気になる〈親切にしてもらい感謝している〉の気持ちから《情報による心の揺らぎ》のサブカテゴリーが抽出された。また、〈自分にあった線量が当たっているのか不安である〉〈確実に治療できているか目に見えると良い〉の気持ちから《医療ミスの心配》のサブカテゴリーが抽出され、〈納得がいくまで診てもらいたい〉〈定期的な診察を継続的にしっかりしてほしい〉という気持ちから《継続治療の希望》というサブカテゴリーが抽出された。安全に・安寧に治療を受けたい、治療を続けたいという気持ちがみられた。

## 考 察

### 放射線治療開始時の乳がん患者の気持ち

放射線治療を受ける乳がん患者は、がんを告知され治療するしかないと覚悟し、治療の説明を受けて納得して放射線治療を始めていた。それは手術後に、併用療法として化学療法やホルモン療法を行い、時間的な経過後のため、告知直後の衝撃の段階<sup>12,13</sup>は過ぎ、適応段階に移りつつあると考える。しかし新しい治療方法を受け入れていかなければならず「受容」と「苦悩」の気持ちが葛藤していることがわかった。乳房温存療法を受けた患者の

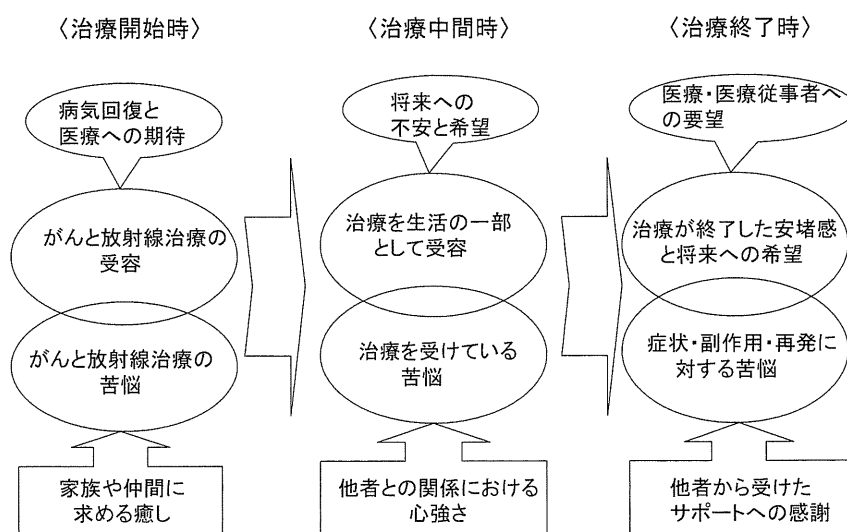


図1 放射線治療経過に伴うがん患者の気持ちの変化

心理的变化として佐藤ら<sup>11</sup>が明らかにした安寧と苦悩または両方の気持ちを持っているという結果と類似している。また、家族や仲間癒しの気持ちを探していることがわかった。術後乳がん患者において家族や医療者からのサポートに加え、患者同士のサポートシステムが重要な役割を果たすという研究結果<sup>5</sup>からも明らかのように、仲間との関わりが患者の健康の維持に重要な役割を果たしている。そして病気の回復と医療への期待がみられたことは、治療終了という目標を実現したいという気持ちが現れていると考える。

#### 放射線治療中間時の乳がん患者の気持ち

この中間時でも開始時と同じ、「受容」と「苦悩」が含まれていたが、この中間時ではがんという病気に対しての気持ちはほとんど聞かれなかった。毎日治療に通い続けることの辛さや、副作用に対する悩み、照射野を示すマークがずっとついてくることの違和感など、放射線治療を続けることの苦悩が多く聞かれた。しかし、仲間との交流や治療継続を支えてくれるサポートによって、放射線治療を毎日の生活の一部として受容できている患者が多かった。この時には、治療開始の時期からすると適応の段階<sup>12,13</sup>に変化していると考えられる。そして、他者との関係がうまくいき心強く感じていることは、コーピング方略尺度<sup>14</sup>に含まれる「他者からの援助を求める」に相当し、この時点での大きな力となっている。また将来への不安と希望の気持ちを持っていることは、まだ続く治療への気配りや将来の心配からくる不安な気持ちと、治療を成就させようと願望む気持ちが現れていると考える。

#### 放射線治療終了時での乳がん患者の気持ち

「ほっとしている」「やっと終わった」という放射線治療が終了した安堵感は、宗像の感情に関するガイドライン<sup>15</sup>の中の、期待がかなえられたりかなえられそうなど

きの感情である「喜び」と共に、コーピングがうまくいっている現れである。しかし、身体的に疲労感があることや皮膚の症状がみられることより不安は常に存在している。その不安と「がん」という疾患から転移や再発の恐れがあり、苦悩な気持ちを患者は持っている。また家族や仲間からサポートされ感謝する気持ちが見られたことは、宮下ら<sup>16</sup>の研究からもいえるように、家族や医療者からのサポートを受けて患者は満足していることがわかる。そして治療終了となってあらためて治療を振り返ってみると、治療の時間や方法をその都度言ってほしかったという具体的な要望や、目に見えない放射線の医療への疑心が聞かれた。医療従事者の質の向上と医療や機器技術の進歩を望む切実な気持ちであった。

#### 放射線治療を受ける乳がん患者の気持ちの変化

放射線治療開始時と中間時・終了時で乳がん患者の気持ちを比較してみると、開始時では、がんと放射線治療に対する受容と苦悩の気持ちが見られ、家族や仲間癒しを求めており、それが大きな心の支えになっていた。中間時になると、がんという疾患よりも放射線治療をしていることに対する受容と苦悩の気持ちに絞られた。この時には家族や仲間、医療従事者のサポートを心強く感じ、毎日の生活を自分なりに構築していた。終了時では、やっと治療を終えた安堵感が強く、将来に向けての希望が大きかった。しかし症状や副作用が影響して苦悩な気持ちが出現し、さらに再発予防のために治療を継続しなければならないことの苦悩があった。この時には心の支えとなってきたサポートに関して、感謝する気持ちが大きく現れていた。放射線治療を受けている過程で、患者は受容と苦悩の気持ちを繰り返し持ち、家族・仲間・医療従事者のサポートが大きな支えになっていることが明らかになった。そして医療に関して期待や要望を常に持っていることがわかった。

対象者個々を比較してみると、早い時期から放射線治療を受容し、そのまま治療終了まで喜びの気持ちを持ち続けられる人、開始時に受容していても、治療回数 20 回目頃からの倦怠感や皮膚の変化で苦悩を強く感じる人、開始時には苦悩が強くてでも終了時に安堵感と希望の気持ちが高まる人、など気持ちの変化は異なっていた。それは対象者の背景の違いや日常生活の家事面・生活面・通院面・仕事面においてそれぞれの工夫やサポートが影響していた。<sup>8</sup>

#### 放射線治療を受ける乳がん患者の看護支援

放射線治療開始時には、がんの疾患を抱えている患者であること、放射線治療という患者にとって未知の体験であること、治療部位が乳房であること、などを考慮して支援する必要がある。また中間時では毎日欠かさず通わなければならないこと、倦怠感や皮膚の変化などの副作用が始まってくる時期であること、他者からの影響が大きいこと、などを理解して関わっていかねばならない。そして治療が終了しても副作用や再発の不安を持ち続けていること、がんと共に生きていかなければならないこと、サポートを必要としていること、という患者の気持ちが明らかになった。

その時々の方々の気持ちの葛藤に合わせた知識や情報の提供を行い、健康な自我を支える<sup>17</sup> 関わりをして、患者が受容の気持ちでいられるような具体的な看護支援を展開する必要がある。

#### おわりに

本研究では、乳がん患者が放射線治療を受ける時の治療経過に伴った気持ちを明らかにした。今後放射線治療の経過と共に現れる気持ちの変化に対応する具体的な看護支援を検討することが望まれる。また患者は医療の専門家のサポートを日常生活の中で求めていることがわかり、放射線治療終了後でも継続的なケアの必要性があることを感じた。

#### 謝辞

本研究にご協力頂きました患者の皆様、および病院の関係者各位に深く感謝いたします。

#### 引用文献・参考文献

1. 平成 15 年簡易生命表, 厚生統計協会, 2004.

2. 辻井博彦監修: がん放射線治療とケア・マニュアル, 医学芸術社, 2003: 66-69.
3. 藤野文代: 乳がん患者の危機のプロセスと心理的適応に関する研究, 群馬大学保健学科紀要, 1997: 55-60.
4. 大堀洋子: 乳癌術後の患者の気持ちの変化と対処行動, 日本がん看護学会誌, 14 巻 1 号, 2001.
5. 真壁玲子: 乳がん体験者のソーシャル・サポートと精神的・身体的状況との関連, 日本がん看護学会誌, 12 巻 1 号, 1998.
6. 朴 順禮: 乳がん患者の不安に関する研究, 聖マリアンナ医学研究誌, 2 巻, 2002: 37-43.
7. 季羽倭文子, 飯野京子: 日本がん看護学会における過去 10 年間のがん看護研究の動向, 日本がん看護学会教育・研究活動委員会報告, 12 巻 1 号, 1998: 41-49.
8. 近藤奈緒子: 乳房温存療法で放射線治療中の外来乳がん患者の日常生活上の困難, 日本がん看護学会誌, 18 巻 1 号, 2004.
9. Oken MM, Creech RH, Tormey DC, et al: Toxicity and response criteria of the Eastern Cooperative Oncology Group. Am J Clin Oncol, 1982; 5: 649-655.
10. 舟島なをみ: 質的研究への挑戦, 医学書院, 1999: 35-102.
11. 佐藤まゆみ: 乳房温存療法を受ける乳がん患者の術後 1 年間の心理的变化, 千葉看護学会会誌, 8 巻 1 号, 2002: 47-54.
12. Fink, S. L. Crisis and Motivation: A Theoretical Model, Cleveland, Ohio, Case Western Reserve University, 1973.
13. 中村めぐみ, 矢田真美子: Fink の危機モデルによる分析, 看護研究, Vol. 21 No. 5, 1988: 44-50.
14. 小杉正太郎編著: ストレス心理学, 川島書店, 2004: 116-121.
15. 宗像恒治: SAT カウンセリング技法, 光英社, 1997.
16. 宮下美香, 久田 満: 術後乳がん患者における心理的適応に対するソーシャル・サポートの効果, がん看護, 9 巻 5 号, 2004.
17. 保坂 隆: がんところ, テンタクル, 2001. 166-189.



# A Feeling of the Breast Cancer Patients with Radiotherapy Progress

Misayo Akaishi,<sup>1</sup> Junko Ishida,<sup>2</sup> Kazuko Ishida,<sup>3</sup>  
Sanae Uehara<sup>4</sup> and Kiyoko Kanda<sup>5</sup>

1 Graduate School of Health Sciences, Gunma University.

2 Honjo Kodama Nursing vocational School.

3 Division of Nursing, Gunma University Hospital.

4 Department of Nursing, Gunma Prefecture Cancer Center.

5 School of Health Science, Gunma University.

**Background and Aims :** We studied breast cancer patient reactions during the radiation therapy and nursing support. **Patients and Methods :** Six breast cancer patients undergoing radiation treatment agreed to participate. We obtained data from nursing records, semi structured interviews, and treatment records. We coded patient response using qualitative induction and categorized them. **Results :** We categorized feelings before radiation treatment as “acceptance of cancer and radiation treatment,” “agony from cancer and radiation treatment,” “emotional healing/support by family and friends,” and “hope for recovery and medical advances.” During the radiation treatment, categories were : “acceptance of the radiation treatment into everyday life,” “agony from radiation treatment,” “feelings of security through communication with others,” and “hope and anxiety for the future,” At the end of radiation treatment, categories were : “hope for the future and a sense of security,” “agony from symptoms, side effects, and recurrence,” “thankfulness for others’ support,” and “a demand for medication and more educated people working in this medical field.” **Conclusion :** We found that we need more information and advanced techniques to provide sufficient medical support for breast cancer patients who are having difficulties in radiation treatment. (Kitakanto Med J 2005 ; 55 : 105~113)

**Key words :** radiation treatment, breast cancer patients, feelings, qualitative research